

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事	2023年 7月27日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町 真宗大谷派宗務所内	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 学校法人真宗大谷学園 理事長 木越 渉
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	未導入
適 用 範 囲	
導 入 年 月 日	年 月 日
認 証 番 号	
基 本 方 針	現在、本学園ではエネルギーの管理と省エネルギーの推進を行う組織を整備するため、大谷大学では検討を行っている段階である。その中で、改正された条例に基づいた「環境マネジメントシステム」の導入に向けた検討も始める予定である。なお、省エネルギーの事業については、各設置校においても、服装の軽装化や減灯等実施可能な活動より取り組んでいる。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	大谷大学における目標 ①R22フロン使用の抑制 ②省エネへの啓発活動
目標を達成するための取組の内容	大谷大学においては以下の取組を行う。 ①R22フロン使用のGHP更改工事の実施 ②クールビズ・ウォームビズの実施 ③空調機フィルター清掃等、空調機器の効率的運用と、省エネルギー施策・啓発活動 ④トイレ・ウォシュレットの温水・便座スイッチオフ
目標を達成するための取組の進捗状況	大谷大学においては、目標を達成するための取組①～④は取り組むことができた。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	大谷大学においては、警備員巡回時に未使用教室の電気を消灯するなどの省エネへの取組に加え、新教室棟の完成に伴う仮設キュービクルの撤去、新教室棟におけるLED照明化や空調効率の向上、部室棟への高効率ペアガラス導入による断熱効果の向上により電力使用量を減少させた。また、各建屋における省エネ率を向上させる方策を順次実施している。ただし、新型コロナウイルス感染症対策として、換気を実施しながら空調運転を行っていることから、電力使用量が増加している側面がある。
事業活動に係る法令の遵守の状況	法令については、常に遵守するように心がけている。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。